



No.28

平成26年7月11日

発行 多治見市教育研究所

URL

<http://school.city.tajimi.lg.jp/kyoiku/>
本誌は、多治見市教育研究所ホームページ上でもご覧いただけます。

卷頭言

「いい子どもが育つ」都道府県ランキングから

多治見市教育委員会 副教育長 丸山 近

大垣共立銀行グループの共立総合研究所から『いい子どもが育つ』都道府県ランキング』というレポートが出されました。これは、平成25年度に行われた全国学力・学習状況調査を分析したものです。それによりますと、岐阜県は全国第23位にランク付けされています。第1位は秋田県、第2位は宮崎県、第3位は山梨県です。分野別都道府県ランキングでは、岐阜県は次のようにになっています。

○生活習慣	第21位
○意志・人格	第44位
○家庭	第41位
○道徳・規範	第9位
○地域	第13位
○テレビ・ゲーム・メール等	第6位
○社会への関心	第19位
○学校生活	第36位
○学習意欲・習慣	第42位
○コミュニケーション能力	第14位
○体験	第38位
設問ランキングを見てみると、よい結果として出ているのが	
○朝食を毎日食べている	第4位
○学校の決まりを守っている	第4位
○友達との約束を守っている	第3位
反対に低かったものとしては、	
○ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある	第46位
○将来の夢や目標を持っている	第45位
○学校に行くのが楽しい	第47位

これらのランキングは、「いい子ども」が育つための生活習慣や学習習慣などが備わっているかを評価したもので、実際に子どもが「いい子ども」であるかを評価したものではありませんので、この結果に振り回される必要は無いと思いますし、すべてが多治見市の傾向と一致するわけではありません。しかし、私たちの教科指導や学級経営、学年経営、学校経営を見直すいい機会として捉えてみたいと思います。

大変ショックだったのが、「学校に行くのが楽しい」と感じている子どもが全国一少なかつたということです。「楽しい」のとらえ方にもありますが、勉強が楽しくないから学校に行くのが楽しくない、そう感じているのでしょうか。少なくとも勉強が楽しくないと感じているということは、学校に行くのが楽しくないにつながっていることは否めないように思います。道徳心や規範意識が高い子どもたちだけに、楽しくなくても一生懸命学習している様子がうかがえます。

さて、この結果を自分の教科として、学級として、学年として、学校としてしっかり分析していただき、子どもが楽しく生き生きと生活し、笑顔で下校できるよう教科指導、学級経営、学年経営、学校経営に努力していきたいものです。

インクルーシブ教育（支援児包容教育）推進プランについて

昨年度より「インクルーシブ教育（支援児包容教育）推進プラン」がスタートしました。このプランは、『みんなが伸びる みんなと伸びる 自立を支援する教育の推進』をめざして実施されます。平成25年度より、「インクルーシブ教育推進委員会」を立ち上げ、準備をしてきました。

めざす方向は、共生社会の形成です。共生社会とは、誰もが相互に人格と個性を尊重し合い、人々が多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会のことです。そのために、障がないの有無にかかわらず共に学ぶ仕組みをつくるとともに、個の教育的ニーズに応える支援をすることで自立して社会参加する力を養っていきます。

このプランの柱は大きく3つあります。「園・学校力の向上」「教育的ニーズへの対応」「諸機関との連携」です。

「園・学校力の向上」では、交流教育の充実、教職員の専門性の向上、就学相談・就学先決定

の確立を行います。「教育的ニーズへの対応」では、一人ひとりの教育的ニーズを把握し、それに応じた指導・援助の充実、多様な学びの場の整備と学校間の連携を行います。特に、誰もができること、わかることを目指した授業のユニバーサルデザイン化や個の教育的ニーズを把握して的確な支援をする方法の工夫を取り組んでいきます。「諸機関との連携」では市指定特別支援教育推進校や他機関と連携をとりながら計画を進めて行きます。こうした取組は、教育だけでなく、福祉、保健、医療と連携をすることが重要です。

近年、市内の小中学校の児童生徒数が減少しているが、特別支援学級に在籍する児童生徒数は増加傾向にあります。また、市就学指導委員会に諮る数は依然多いままです。さらに、通常学級における支援を要する児童生徒の数も増加傾向にあります。こうした中、園や学校では日々一人ひとりを大切にした学級経営がなされ、みんなができる、みんながわかる授業づく

『みんなを支援！ みんなで支援！』＝インクルーシブ教育（支援児包容教育）推進プラン＝

【多治見の特別ではない支援教育】

第1期 推進構想
平成25～26年度

みんなが伸びる みんなと伸びる 自立を支援する教育の推進

めざす方向

共生社会の形成に向けて、
①障がないのある子どもが、その能力や可能性を最大限に伸ばし、自立し社会参加をめざす。
②地域社会の中で積極的に活動し、その一員として豊かに生きることをめざす。
③障がないのある子どもと障がないない子どもが、できるだけ同じ事で共に、学ぶことをめざす。

く間に応じた支援の充実>

たじみ教育生生活きプラン

(長期計画)

障がないの者無にかかわらず、すべての子どもが、授業内容が分からず学習活動に参加している実感・達成感をもてるよう、園に応じた支援を充実します。

①インクルーシブ教育（支援児包容教育）の理念に立ち、一人ひとりの自立を目指すため、個を支援する教育を推進します。

②保護センター、児童支援センター、幼稚園・保育園、学校などで障がないのある子どもの状況を共有し、継続的な支援を充実します。

③通常学級に在籍する心身適應がい等がある子どもに対し必要な支援ができるよう、教職員研修を実施します。

④学校体制の中で支援員キヨウスタッフと連携して効率的に配置します。

諸機関との連携

○市指定特別支援教育推進校

(H26. 養正小・根本小・北栄小・北陵中)

○特別支援学校

・特別支援教育コーディネーター

○児童支援センター

・巡回児童相談



★福祉、保健、医療と教育との連携

インクルーシブ教育推進委員会(委員:15名)

[事務局] ◎教育研究所 ○教育相談室 教育推進課 子ども支援課 福祉課 保健センター

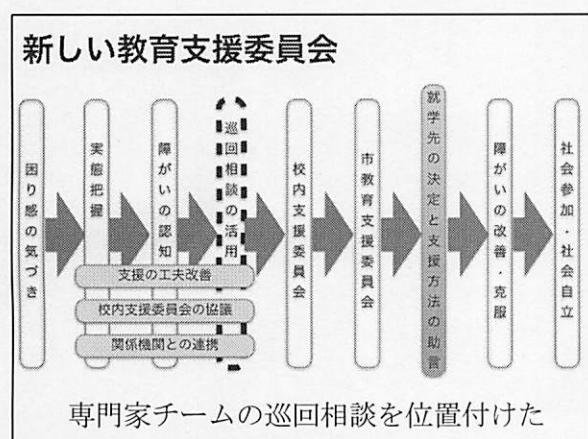
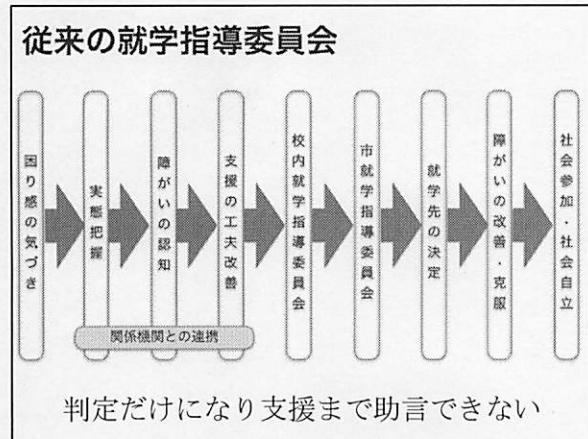
インクルーシブ教育（支援児包容教育）推進プランの構想図

りの研究を進めています。こうした取組を広げていけるとよいと考えています。

多治見市版インクルーシブ教育システムをつくるにあたり、現在推進していることを紹介します。

○新しい就学先決定の仕組み

従来の市就学指導委員会の課題は諮る件数がたいへん多いため、判定のみになり支援方法についての助言ができませんでした。そこで、市就学指導委員会に諮る前に、専門家チームが幼稚園・保育園・小中学校からの要請に応えて、巡回相談を行うことにしました。専門家が実際に子どもの様子を見て、園や学校から普段の様子や客観的データをもとに、適した就学先や支援方法や支援体制について助言をします。



※ 就学先の判定だけでなく、支援方法や支援体制についても助言することから、名称を教育支援委員会と変えました。

○幼保小連絡会

これまで、幼保と小学校の引き継ぎに課題がありました。それは、1つの学校にさまざまな公私立幼保から入学してくるためです。

そこで、公私立幼保と小学校が一堂に会して支援が必要な子どもの引き継ぎをする場を新たに設けました。昨年度は3月に開催をし、小学校は9校、幼保は22園が集まりました。今年度は、第2回市教育支援委員会の判定後、尚かつ就学時健診の前に行うことが適切であると考え、10月上旬に設定をしました。

○授業のユニバーサルデザイン化

昨年度、根本小学校と北陵中学校が東濃特別支援研究協議会の発表を行いました。各校では、通常学級における特別な支援を要する子どもへの支援の工夫をされました。特に、授業のユニバーサルデザイン化に取り組まれました。これは、すべての児童生徒が「わかる」「できる」ように工夫・配慮された授業です。さらに、それは障がいのある児童生徒にとって、特性を踏まえた指導・支援は「なくてはならないもの」であり、障がいのない児童生徒にとっては「あると便利なもの」です。

授業のユニバーサルデザイン化の視点

- ・見通しがもてる
- ・学習のルールの明示
- ・個の実態に応じた指導・援助
- ・自己肯定感を味わうことができる評価

こうした授業づくりのためには「安心できる学級づくり」が土台となります。

～この他に行われていること～

- ・要支援の子どもの早期発見
2歳3ヶ月健診においてスクーリニングの実施
- ・特別支援学級におけるタブレット端末を使用した支援
- ・特別支援学校2種免許状の取得に関わる説明会の実施
- ・特別支援に関する内容の教師塾セミナーの開催

わたしの主張2014 多治見市大会



去る6月21日、多治見市文化会館小ホールに於いて「わたしの主張2014多治見市大会」が開催されました。

市内13校区の代表者、25名（1名都合により欠席）による熱のこもった主張が繰り広げられました。若い視点から社会を見つめ、彼ら、彼女らなりに考えたことを世の中への提言として立派に話す姿は、たいへん頼もしいものでした。

代表の児童生徒の主張から、「まず自分から動き出そう！」という確かな決意を受け止めると共に、「どんなことでも決意さえすれば何歳からだって始められるし、変われるのだ！」という励ましをもらったような気持ちになりました。

若い力と共に、この多治見から日本を変えられるよう、私たち大人たちも頑張らねばなりません。

わたしの主張2014 多治見大会 結果

【最優秀賞】

- | | |
|--------|---------------|
| 南姫小学校 | 6年 酒向 英伸 さん |
| | 「仲間と学んだ喜び」 |
| 多治見中学校 | 3年 柴山 葵歩 さん |
| | 「障がいをもって思うこと」 |

【優秀賞】

- | | |
|--------|--------------|
| 池田小学校 | 6年 良盛 弘 さん |
| | 「心にあるバリアフリー」 |
| 根本小学校 | 6年 長谷川寧音 さん |
| | 「父の背中に学ぶ」 |
| 平和中学校 | 3年 鈴木 なお さん |
| | 「日本の社会と食事」 |
| 南ヶ丘中学校 | 3年 田中 風音 さん |
| | 「今ある自分」 |

【社会を明るくする運動賞】

- | | |
|-------|--------------|
| 精華小学校 | 6年 池俣 和佳 さん |
| | 『命』の素晴らしさ |
| 笠原中学校 | 3年 長谷川紘伽 さん |
| | 「マイナスからプラスへ」 |

S S W (スクールソーシャルワーカー) の仕事①

多治見市は、学校の諸問題解決のための方法の一つとして、S S W (スクールソーシャルワーカー)を導入しています。この役割について詳しくお知らせするために、このコーナーで、S S Wの仕事の内容や取組の様子について伝えていきます。

1 S S Wとは

児童生徒が抱える問題行動や不登校の背景には、心の問題とともに、家庭や友人関係、地域、学校など、児童生徒の置かれた環境の問題が複雑に絡み合っており、学校だけでは対応が困難な事例もあります。

S S Wは、児童生徒を取り巻く環境の改善を図るために、社会福祉等の専門的な知識・技術を用いて、児童生徒や保護者の相談に応じたり、関係機関等との連携・調整を図ったりするなどの支援を行います。多治見市では、今年度2名のS S Wが活動しています。ぜひご活用ください。

2 S S Wの役割

- 問題を抱えた児童生徒が置かれた環境への働きかけ
 - ・ いじめ、不登校、児童虐待、暴力行為など、児童生徒の生徒指導上の諸問題における家族、友人関係、学校、関係機関、地域等への働きかけを行います。
- 関係機関等とのネットワークの構築、連携・調整
 - ・ 関係機関への訪問、電話による情報交換、打合せを行います。
- 学校内におけるチーム体制の構築、支援
 - ・ ケース会議等への参加とアセスメント及び問題解決のプランニングのサポートを行います。
 - ・ 校内チーム体制づくりのサポートをします。
- 保護者・教職員への支援・相談・情報提供
 - ・ 来校または家庭訪問、電話による相談活動を行います。
 - ・ 教職員と保護者間の連絡調整をします。
- 教職員等への研修
 - ・ 校内研修や保護者会などの講師や助言者を行います。

(S S W活用の手引き(県教委)より抜粋)

「第1回 市初任者研修」を行いました
～多治見の先生として 多治見を知って
多治見を大好きになろう～

今年度、多治見市で教師生活をスタートされる先生方は、19名です。多治見の先生として、地域を知り、地域との連携について知見を得るために、市では年間4日間の初任者研修を計画しています。

第1回の初任者研修は、4月15日に以下のねらいと内容で行いました。

＜ねらい＞

多治見市の教育の方針と重点を理解するとともに、文化財を含めた多治見市についての理解を深める。

＜内容＞

- 1 多治見市の方針と重点
- 2 永保寺見学
- 3 古川市長講話
- 4 市役所見学
- 5 仙太郎窯見学
- 6 美濃焼ミュージアム見学

古川市長からは熱い励ましの言葉をいただきました。「教育環境において県No.1をめざす！」という市長の言葉から「多治見市に来ることがで嬉しい」という感想をもった先生が多かったです。

初任者の先生方は、各地を訪れ、熱心に見学しました。また、地域の著名な方からの話も興味深く聞くことができました。このように、研修を通して、地域を知るとともに、本物を見る・触れる体験学習の大切さを学びました。

初任者の先生の感想には「多治見市に暮らす人は自らの町のことを誇りに思っていることを強く感じた」とありました。地域の方の思いを受け止めながら、私たち教師は、子どもの前に立たなければなりません。そして、多治見に誇りをもち、自分や自分の町が大好き！と言える子どもを育てたいです。今回は、その一歩となる研修となりました。



平成26年度 多治見市新規採用教員の紹介

教師として歩みはじめて①

「子どもと共に成長する私」



根本小学校 吉田 寛子

ずっとなりたいと思い続けた夢がかなって、早いもので4か月が経ちました。担任として、ほぼゼロからのスタートでした。あたふたとしてあつという間に過ぎました。困った時は多くの先生方がやさしく教えて下さり、本当に感謝しています。

子どもたちはやる気いっぱい。『だまって掃除、配膳、落ち着いたあいさつ』の取組では「がんばる！」「できる！」とみんなのために自分も力を合わせようと目標に向かって努力する子どもたち。担任の想いにすぐ反応して姿で示そうとします。子どもと共に目標に向かい一体感を味わうことができる、本当にやりがいのある職業だと思います。

今、私が大切にしていることはどの子も安心して過ごせるクラス作り。きまりを守って落ち着いた生活が送れるよう、共に歩んでいきたいです。「できた」ことを見逃さず「褒めて」あげ、さらにがんばろうと意欲がもてるぬくもりのある学級作りを目指していきたいです。

温かく見守って下さる保護者の方、たくさんの場面で助けていただいている多くの先生への感謝の気持ちを忘れず、日々一生懸命努力し、研修で学んだことを子どもたちのために生かし広めていこうと思います。

「子どもたちの姿から学ぶこと」



脇之島小学校 水谷 佳代

4月から始まった教師としての生活は、何もかもが初めての経験で、3か月がいつの間にか過ぎていきました。子どもたちと過ごす日々の中で、元気よく「おはようございます」と挨拶をしてくれる姿や外で元気よく遊ぶ子どもたちの笑顔が毎日エネルギーとなり、「今日も1日頑張ろう！」という気持ちに導いてくれます。子どもたちの存在の大きさを改めて実感しています。

授業の中で、「分からない」という子どものつまずきをつかみ、声かけや指導の方法を工夫することで「分かった」という子どもの姿を見る事ができました。子どもたち一人一人の行動や発言に目を向けることが、私自身も指導の方法を学ぶ大切な機会となっています。たくさんの研修でご指導いただき先生方に感謝しながら、これからも授業や活動の中で、「子どもたちの姿から学ぶ」ということを大切にしながら子どもたちと関わっていきたいです。

平成26年度 多治見市新規採用教員の紹介

教師として歩みはじめて②

「感謝の気持ち」



笠原小学校 岩崎 梓

ずっと夢だった教師になることができた今、これまでお世話になった先生方と応援してくれた両親に感謝の気持ちでいっぱいです。「教師になれないんじゃないかな」と諦めそうにな

なったときが何度もありました。しかし、そういう気持ちを乗り越えて、今日まで頑張ることができたのは、子どもたちや尊敬する先生方との出会いがあったからです。

講師だったときに出会った先生方とお別れする際、「今日も生涯の一日なり」というメッセージを頂きました。つらい時も、この言葉を思い出し、「いつかこの経験が役に立つときが来る」と信じて、強い気持ちをもつことができました。また、卒業していった生徒が卒業後の頑張りを知らせてくれたときも、大変励みになりました。そして、ずっと見守ってくれた両親には、本当に感謝してもしきれません。

これまでに多くの人に支えられて今の自分があるということを忘れず、教師を目指し始めた頃の気持ちを忘れず、子どもたちと共に学び続ける教師でありたいと思います。

「子どもたちとともに」



陶都中学校 大西 法隆

中学校の時から目指していた教員になるという夢を実現することができ、不安と期待が始まった4月でした。教員としての生活がスタートし、あっという間に3か月が過ぎました。

それだけ充実した毎日を送ることができているのだと思っています。また、中学生という多感な時期に関わることに責任を感じています。周りの影響も受けやすく、仲間関係も変わってきます。子どもたちが心身ともに成長する中で、充実した中学校生活を送ることができたという大きな財産を残す支えになっていきたいです。私自身も子どもたちとともに喜び、楽しみ、悲しみ、悩んで成長していきたいと考えています。

学級の子どもたちに私の願いを伝えました。「進化・深化・真価」です。挙手や係の仕事に挑戦する姿や仲間を思いやる姿を大切にして欲しいと思っています。これは私自身が目指している姿でもあります。生徒とともに日々精進して大きく成長する1年にしていきたいと思います。

「挑戦の1年」



陶都中学校 吉山 翔子

教師としての道を歩き始め、そして多治見市にやってきてから、4ヵ月が経ちました。新しい土地に、新しい出会い…なにもかもが新鮮で、毎日が発見と驚きの連続です。そして今年は、私が小学校2年生から続けている剣道の部活顧問を任せいただき、生徒とともに剣を交えて汗を流すことがとても楽しいです。

今年の私のテーマは『挑戦』です。生徒たちに「頑張れ」というだけでなく、新任らしく「一緒に頑張ろう」という言葉をかけることができる教師で居続けたいと思っております。剣道だけではなく、担当教科である英語でも常に学び続け、生徒に英語の楽しさ、そして気持ちが伝わる喜びを実感させられるような授業をしたいです。

毎日起こることすべてが私にとっての挑戦です。何事にも「まずはやってみよう。」という気持ちで、新任らしく生徒とともに元気に1年を過ごしたいです。また、今年は3年生の所属なので、一人一人の進路実現のために精一杯サポートしていきます！

「素晴らしい生徒との出会い」



陶都中学校 土井 佐織

明るく挨拶ができる生徒たちに出会いました。大きな声での挨拶は気持ちがいいものです。自然と自分も大きな声で挨拶ができ、爽やかな気持ちになります。

掃除に黙々と取り組める生徒たちに出会いました。掃除しなくてもいいのではないかと思うくらいぴかぴかに光る廊下も、彼らは「もっときれいに！」と雑巾掛けします。これほど熱心に掃除に取り組む生徒は初めてでした。

誤った友だちを正せる生徒たちに出会いました。間違いを見過ごさない勇気、見捨てない優しさは、誰もがもっているわけではありません。素敵だと思いました。

クラスを高めようと一生懸命声をかける生徒、またそのリーダーに応えようとする生徒たちに出会いました。自分たちでいい集団をつくろうという気持ちに、ただただ感心しました。

このような素晴らしい生徒の姿に出会うことができ、更なる生徒達の成長を見守り続けることのできるこの仕事に、幸せを噛み締めています。